

# 日本学校教育学会 第 35 回 研究大会 プログラム



【岩手大学と盛岡大学、岩手山】

日本学校教育学会  
第 35 回 研究大会 実行委員会  
共催：岩手大学、盛岡大学

## 目次

研究大会開催にあたって	2
研究大会のご案内	3
研究大会参加申込・大会参加費	4
自由研究発表要領	
お問い合わせ先	5
自由研究発表 1	6
自由研究発表 2	7
自由研究発表 3	8
自由研究発表 4	9
自由研究発表 5	10
自由研究発表 6	11
自由研究発表 7	12
定期総会	13
2021 年度シンポジウム	14
課題研究	15
ラウンドテーブル 1	16
ラウンドテーブル 2	17
ラウンドテーブル 3	18

## 日本学校教育学会第 35 回研究大会の開催にあたって

現在、我が国及び世界はコロナ禍の中にありますが、会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと拝察いたします。

昨年度の本研究大会は、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となりました。現在も全国で深刻な感染状況が続いており、終息には至っておりません。このことから、2021 年度の研究大会はオンラインにより実施することになりました。

今年度の研究大会は、開催校を岩手大学及び盛岡大学とし、8月7日に実施いたします。本大会では、例年どおり、自由研究やシンポジウム、課題研究、ラウンドテーブルを実施いたします。

本学会は、大学・研究機関の研究者と多数の現職教員等の方々に構成された学会であり、当初より理論と実践の往還・融合を目指す研究を特色としてまいりました。

本学会設立の理念及び現在の学校の状況を踏まえ、シンポジウムでは、「学校の危機を踏まえた教育活動の展開」と題し、自然災害や新型コロナウイルス等、教育活動の継続を脅かすような状況に対して、教育活動を継続させるためにどのように対応すべきかを模索します。

自由研究発表につきましては、コロナ禍という社会情勢であるのにもかかわらず、会員の皆様より 31 件の申し込みをいただきました。分科会として7会場を設定させていただきました。これまでにはない Zoom による実施ではありますが、オンラインでの熱い議論が交わされることを期待しております。

課題研究では、テーマを「教職大学院におけるミドルリーダーの専門的力量とは ―ML に求められる教師力とその育成課題―」とし、研究成果の発表及び研究協議を行います。

さらに、ラウンドテーブルでは各委員会より課題解決のための提言や研究成果の発表があります。機関誌編集委員会は、投稿論文の質的向上を図るための「実践的研究論文の書き方」をテーマに開催します。実践研究推進委員会は、これまでの実践研究の成果として「教育委員会の学力向上政策への外部支援の在り方」と題して、実践の成果を発表します。さらに国際交流委員会は、「スタディツアーから見る東アジアの最先端教育実践」と題して、研究成果の発表が行われます。

本大会は、オンラインによる実施となりますが、会員のみなさまに画面でお会いできることを楽しみにしております。しっかりと準備を進めてまいりますが、コロナ禍における人員配置の制限等から、限られたスタッフによる運営となります。機器やソフトの操作におきまして不慣れなことが多く、ご迷惑をおかけすることも想定されます。何卒、ご容赦の上、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

このような状況及び8月の上旬は猛暑の中での大会となりますが、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

最後になりましたが、本研究大会の開催につき、岩手大学や盛岡大学及び各大学関係者の皆さまに多大なるご協力を賜りました。このことにつきまして関係各位に深甚なる謝意を表させていただきます。ありがとうございました。

日本学校教育学会 第 35 回研究大会

実行委員長 鈴木久米男（岩手大学）

# 1. 研究大会のご案内

## (1) 大会日時と会場

日時：2021年8月7日（土）、9：00 ～ 18：10

会場：担当校 岩手大学、Zoomによるオンライン開催

（※ 8月6日（金）に 理事会を開催 16：00～18：00）

Zoomによる大会への参加方法については、後日お知らせいたします。

## (2) 大会日程

8:30～ 9:00	9:00～ 11:30	11:30～ 12:10	12:10～ 12:55	13:00～ 14:40	14:50～ 16:40	16:50～ 18:10
準備	自由研究 (150分)	昼食	定期総会 (45分)	シンポジウム (100分)	課題研究 (110分)	ラウンドテーブル (80分)

## 2. 研究大会参加申込・大会参加費

### (1) 大会参加申込

大会への参加を希望される会員は、Forms（下記 URL よりお入りください）より、7月7日（水）までにお申し込みください。なお、下にご案内したとおり、大会参加費の振り込みも必要になりますのでご注意ください。参加申し込みと振り込みの両方が確認できた後に、参加者マニュアル等をメールにて送付いたします。

【大会参加申し込み用フォームの URL】

【QR コード】

[https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=DQSIkWdsW0yxEjajBLZtrQAAAAAAAAAAAAAN\\_sOSSARUOUpBTE5CQUJCTkdUTk9OVlFOSzBDQ1FRQy4u](https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=DQSIkWdsW0yxEjajBLZtrQAAAAAAAAAAAAAN_sOSSARUOUpBTE5CQUJCTkdUTk9OVlFOSzBDQ1FRQy4u)



### (2) 大会参加費

今年度の大会参加費は、会員区分に応じて、下記の金額といたします。

- 正会員・臨時会員 2,000 円
- 院生会員 1,500 円
- 学部生会員 1,000 円

大会参加費は銀行振り込みとなります。大会事務局で確認できるように、振込は参加される方の名義でお願いいたします。また、会員区分のご記入もあわせてお願いいたします。

大会参加費の振り込みは、オンラインによる研究大会開催に伴う準備等の関係から、7月7日（水）締切といたします。

【振込先銀行名】	岩手銀行 上田支店 店番 065
【種別】	普通
【口座番号】	2091013
【口座名義】	日本学校教育学会第35回研究大会 事務局 鈴木 久米男
	※振込手数料はご負担願います。

### 3. 自由研究発表要領

#### (1) 発表時間

自由研究の発表及び質疑応答の時間は、下記の通りとします。その際、発表はオンラインにより Zoom を用いて、各会員のパソコン等により実施いただきます。

- ・ 個人研究発表（登壇者が1名）・・・発表20分 質疑応答10分
- ・ 共同研究発表（登壇者が1名）・・・発表20分 質疑応答10分
- ・ 共同研究発表（登壇者が複数）・・・発表20分 質疑応答10分

※共同研究の場合には、プログラムのお名前前に○を付した方が口頭発表者になります。

※Zoom による画面共有は一人が担当するものとします。

※Zoom による発表方法や、資料配布の方法等については、後日お知らせいたします。

#### (2) 発表の取りやめについて

万一、お申し込みいただいた発表を取りやめる場合は、すみやかに本研究大会実行委員会 (jase2021iwate@gmail.com) までご連絡ください。発表者が欠席の場合は、発表時間の繰り上げはせず、質疑・休憩の時間にあてます。

### 4. お問い合わせ

大会参加に関することは大会実行委員会事務局に、その他のことについては学会事務局にお問い合わせください。

#### 【大会実行委員会事務局】

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-33 岩手大学教育学部 鈴木(久)研究室

日本学校教育学会 第35回研究大会 実行委員会 事務局

E-mail : jase2021iwate@gmail.com (事務局長 福島正行 盛岡大学)

#### 【学会事務局】

〒943-8521 新潟県上越市山屋敷1番地 上越教育大学内 蜂須賀研究室

E-mail : jase@juen.ac.jp

## 自由研究発表1

司会 西尾 理 (都留文科大学)

1) 9:00~9:30

体育における共感の育成を目指した身体運動

- 加納 岳拓 (三重大学・名古屋大学大学院)
- 岡野 昇 (三重大学)
- 横山 慶子 (名古屋大学)
- 柳瀬 慶子 (常葉大学)
- 山本 裕二 (名古屋大学)

2) 9:30~10:00

生徒の課題発見・解決能力を高めるファシリテーションの手法活用における実証的研究

—高等学校「総合的な探求の時間」における実践を例に—

田村 徳至 (信州大学)

3) 10:00~10:30

「総合的な探求の時間」の充実のために「理数探究基礎」を活用する提案

栗原 爾 (元東京都立向丘高等学校)

4) 10:30~11:00

「現代的な諸課題」への対応を図る教材の開発と授業実践に関する考察

—社会科におけるエネルギー環境教育を視座として—

- 金澤 翔平 (静岡市立由比中学校)
- 牧野 照平 (袋井市立袋井中学校)
- 安藤 雅之 (常葉大学)

## 自由研究発表2

司会 金井 香里 (武蔵大学)

1) 9:00~9:30

深い学びを実現する見方・考え方を働かせたカリキュラム開発に関する考察  
—社会的事象の地理的な見方・考え方に着目して—

○長倉 守 (岐阜大学)

金澤 翔平 (静岡市公立中学校)

2) 9:30~10:00

領域「健康」の授業実施前において学生が抱く健康諸概念の特徴  
馬場 訓子 (岡山大学)

3) 10:00~10:30

日本の公教育における日本語教育

若井 知草 (目白大学)

4) 10:30~11:00

An Analysis of the Critical Period in Language Acquisition

服部 孝彦 (大妻女子大学)



### 自由研究発表3

司会 鈴木 翔 (秋田大学)

1) 9:00~9:30

緘黙傾向が見られる児童生徒に対する現象学的・人間学的教育相談の方法  
土屋 弥生 (日本大学)

2) 9:30~10:00

野田市虐待事例からみる、社会的養護の在り方  
布施野寛鯛 (東京学芸大学・院生)

3) 10:00~10:30

登校渋りのある子どもへの支援の実際  
～小学校児童への実践から～  
湯澤 卓 (上越市立春日小学校)

4) 10:30~11:00

児童間での呼称の使用と友人関係に関する検討  
大塚 彩花 (上越教育大学・院生)

## 自由研究発表4

司会 新福 悦郎 (石巻専修大学)

1) 9:00~9:30

子どもの権利条約におけるフォローアップメカニズムの意義

綱島 陸登 (東京学芸大学・院生)

2) 9:30~10:00

子どもの最善の利益と子どもの権利擁護

—就学援助制度の申請主義を中心に—

栗原 千春 (東京学芸大学・院生)

3) 10:00~10:30

教員の児童に対する多角的・多面的な視点の必要性

—児童と信頼関係を築くために必要な資質能力—

中澤 舞 (上越教育大学・院生)

4) 10:30~11:00

高校生の成長を可視化するルーブリック評価

二俣 潤也 (京華女子中学・高等学校)

## 自由研究発表5

司会 笹田 茂樹 (富山大学)

1) 9:00~9:30

学校と地域の連携・協働実践にみる分散型リーダーシップ  
鈴木 瞬 (金沢大学)

2) 9:30~10:00

教職員の強みを活かしたミドルリーダーのメンタリングに関する研究  
～ストレングス・ファインダーの強みの資質を活用して～  
後小路正人 (信州大学・院生/長野県岩村田高等学校)

3) 10:00~10:30

VUCA時代を生きるミドルリーダー教員の「内なる羅針盤」に関する一考察  
～アート思考・信念に着目して～  
大友 歩 (上越教育大学・院生)

4) 10:30~11:00

コロナ禍における学校教育と働き方改革の一考察  
～管理職へのインタビューを通して～  
元木 廉 (名古屋大学・院生)

5) 11:00~11:30

教職員をエンパワーメントする小学校校長のリーダーシップに関する事例研究  
千葉 史之 (上越教育大学・院生)

## 自由研究発表6

司会 奥泉 敦司 (金沢学院大学)

1) 9:00~9:30

スクール・コミュニティにおける「子どもの育ち」と「コミュニティの豊かさ」をつなぐ一体的好循環の検討

ーブレッケ (スウェーデン) とレッジョ・エミリア (イタリア) に学ぶまちづくりー

○青木 一 (信州大学)

○勝山 優子 (長野県飯山市立飯山小学校)

2) 9:30~10:00

持続可能なスクールコミュニティを目指す北マルシェプロジェクトの実践研究

服部 直幸 (信州大学・院生)

3) 10:00~10:30

日本の『効果のある学校』集団の特徴はいかなるものか

ー学校・子ども・保護者調査の計量分析からー

西 徳宏 (大阪大学)

4) 10:30~11:00

教職員の協働性向上によるチーム支援体制構築の検討

ー協働型支援システムとフィロソフィの往還を通してー

齋藤 貴弘 (長野市立篠ノ井東中学校)

5) 11:00~11:30

高校における職業教育と生徒の学習レリバンス

ーA商業高校における教師の教育観と生徒の意識のずれに着目してー

○青山 淳 (新潟県立糸魚川白嶺高等学校)

○菅原 至 (上越教育大学)

## 自由研究発表7

司会 中川 智之 (川崎医療福祉大学)

1) 9:00~9:30

若年教員の自律的成長を支える学校 OJT  
～メンター会の協働的運営を通して～

柳瀬 啓史 (高知市立介良小学校)

2) 9:30~10:00

教師教育者としての指導主事の職場環境とコミットメント (2)  
－教育センター指導主事の状況－

- 篠原 清夫 (三育学院大学)
- 藤平 敦 (日本大学)
- 中川恵実子 (滋賀県大津市立打出中学校)

3) 10:00~10:30

教員における専門能力開発モジュールに関する研究  
－Bowland Maths を例として－

牛 玄 (東京学芸大学)

4) 10:30~11:00

SDGs に対応した教師教育に資する学習スキル開発に関する研究

- 中山 博夫 (目白大学)
- 多田 孝志 (金沢学院大学)
- 和井田清司 (武蔵大学)
- 石田 好広 (目白大学)
- 峯村 恒平 (目白大学)

5) 11:00~11:30

幼稚園教育要領・保育所保育指針等の新たな事項の、背景と小学校以降の教育との関連について

橘田 重男 (中京学院大学・非常勤)

8月7日(土) 12:10~12:55

会場 ID 1

## 定期総会

- 1 大会実行委員長あいさつ
- 2 会場校学長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 議長選出
- 5 議事
  - (1) 2020年度会務報告
  - (2) 第35回理事会報告
  - (3) 各種委員会報告
  - (4) 2020年度決算および監査報告
  - (5) 2021年度予算案
  - (6) 第36回研究大会の開催機関および時期について
- 6 学会賞表彰

## 2021年度 シンポジウム

### 学校の危機を踏まえた教育活動の展開

本シンポジウムのテーマは、「学校の危機を踏まえた教育活動の展開」である。テーマ設定の背景として、学校における健全な教育活動を阻む危機としての災害や事件・事故等が多発している状況がある。本シンポジウムでは、そのような自然災害や事故、感染症等に対して、教育活動を継続させるためには、学校がどのように対応すべきかを模索する。

学校における教育活動を阻害する災害や事故として、地震・津波及び洪水等の自然災害や感染症、原子力発電所事故等多様なものがある。そのような自然災害及び事故として、2011年3月の東北太平洋沖地震による大規模津波や福島第一原子力発電所の事故があった。その際は、岩手県や宮城県、福島県の多くの学校が被災した。さらにその際発生した福島第一原子力発電所事故により多くの学校において教育活動の中断を余儀なくされた。同様の学校の危機として、その後の全国各地での大雨による浸水被害、さらに現在も猛威をふるっている新型コロナウイルス感染症等がある。そのような学校の危機といえる状況においても、学校関係者は教育活動継続の努力を続けたと同時に、教育行政には教育活動の継続あるいは迅速な再開のための取り組みが求められた。

本シンポジウムでは、岩手県における津波被害と対応の実態や福島県における福島第一原子力発電所事故での学校移転と復帰のプロセス、さらに岩手県や盛岡市における新型コロナウイルス感染症への対応に関する実態と課題を共有する。加えて、そのような学校危機への対応における OODA ループ活用の在り方を提案いただく。

本シンポジウムをとおして、学校の危機管理の現状と課題とともに、適切な対応の在り方を模索する機会としたい。

本シンポジウムのテーマに迫るためにお願ひした、シンポジスト及びコーディネーターは、下記のとおりである。

#### 【シンポジスト】

森本 晋也 氏 (文部科学省)	国の動静・岩手県の災害対応
阿部 洋己 氏 (福島県立本宮高等学校)	原子力発電所事故への対応
佐藤 淳 氏 (盛岡市立生出小学校)	新型コロナウイルス感染症への対応
大野 裕己 氏 (滋賀大学)	非常時の教育活動の在り方

#### 【コーディネーター】

佐々木 幸寿 会員 (東京学芸大学)

## 課題研究

### 教職大学院で育成するミドルリーダーの専門的力量とは

#### —ミドルリーダーに求められる教師力とその育成課題—

2018-2020年度の課題研究では、「教師教育の高度化」を共通テーマに、教職大学院における教科教育の位置、実践知育成の取り組み、地域貢献に焦点を当ててきた。今期ではこれをさらに発展させるため、「教師教育の高度化におけるミドルリーダーの養成」を共通テーマに掲げ、教職大学院をはじめとする「教師教育の高度化」の課題に引き続き取り組むことを企図している。

ミドルリーダー育成に関しては、第一に、中央教育審議会「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について(答申)」(2019年1月25日)でも、「経験豊かで専門性の高いミドルリーダーとしての主幹教諭の役割」の大きさが指摘されるなど、働き方改革の文脈でも期待は高まっている。第二に、教師力向上に関連して、教育公務員特例法の一部改正後、2017年から都道府県・政令市において、教員育成指標が作成されてきた。この教員育成指標は、教員の各キャリアステージにおける人材育成指標を定めるものであり、ミドルリーダー相当のキャリアステージにおける教職専門性の具体的な姿を可視化する意味をもつ一方、標準化された教職専門性の指標を根拠にする教師力育成のあり方については、多方面からその問題性や課題が指摘されるところでもある。

ミドルリーダー自身も、上部世代・下部世代に比べて人材層が薄いにもかかわらず期待値は高まるばかりという課題を抱えている。授業(教育活動)の模範モデルとして、スクールビジョンやチーム学校の推進役として、世代間の実践知継承の要(かなめ)としてなど、業務と期待が一極集中しやすい世代に、専門的力量の基準(スタンダード)はどれほど適合しているのだろうか。

今回の課題研究(3ヶ年計画の第2回目)は、ミドルリーダーに求められる専門的力量に焦点を当て、国立大学と私立大学における教職大学院で育成するミドルリーダーの専門的力量とその育成実態を確認するとともに、教師力育成の課題の本質に迫ることを目的としている。

#### 【登壇者】

浅野 あい子 氏、矢嶋 昭雄 氏(東京学芸大学教職大学院)  
安藤 雅之 氏(常葉大学教職大学院)  
原田 信之 氏(名古屋市立大学大学院、元岐阜大学教職大学院)

#### 【司会・進行】

菅原 至 氏(上越教育大学)  
田中 謙 氏(日本大学)



## ラウンドテーブル1

### 実践的研究論文の書き方

#### 1 テーマの趣旨

本学会の趣旨として、学校教育の研究に関する理論面と実践面を架橋し、学校教育の一層の発展に寄与していくことがある。学校教育の実践と研究を往還させていく場として本学会の教育界に占める位置は重要である。機関誌『学校教育研究』には、会員が投稿する機会として、「自由研究論文」のほか、「実践的研究論文」と「実践研究ノート」のカテゴリーを設けており、特に「実践的研究論文」と「実践研究ノート」には、実践家の投稿も多いのが本学会の特徴である。

本学会では、過去何回か実践的研究の進め方やまとめ方について、研究大会または機関誌を通じて学会の内外に示してきた。本学会が編集した『学校教育の「理論知」と「実践知」』（日本学校教育学会創立20周年記念論文集、教育開発研究所、2008年）、『これからの学校教育を担う教師を目指す』（学事出版、2016年）においても実践的研究に関わる内容が重点的に盛り込まれている。最近では、機関誌第34号（2019年）「第6部 実践的研究論文に挑戦しよう」において、実践的研究を行う際の視点や方法論について、また、実践論文のまとめ方について示している。

機関誌編集委員会は、実践的研究の方法および論文の書き方等に関して、継続的かつ具体的に提示していくことが本学会の発展のために重要と考えている。本ラウンドテーブルでは、実践論文の例を報告し、ラウンドテーブルの参加者も巻き込んだ実践論文の作成に関する討議を行う。

#### 2 話題提供者および司会（所属）

話題提供：

山崎保寿（松本大学）

小西尚之（金沢学院大学）

大越啄櫻（新潟市立南万代小学校）

司会：

松井千鶴子（上越教育大学）

（機関誌編集委員会）

## ラウンドテーブル2

### 教育委員会の学力向上政策への外部支援の在り方

本ラウンドテーブルは、テーマ「教育委員会の学力向上政策への外部支援の在り方」と題して実施いたします。

現在、教育委員会において、学力向上は、教育行政施策の中核となっております。各教育委員会は、それぞれの人的資源を活用して、授業力向上のための施策を展開しているところですが、その一方で、授業研究等については、外部からの専門的支援が求められていると言われております。

日本学校教育学会では、一関市教育委員会の実施する学力向上のための事業への支援を行っております。本学会は、平成29年4月に「日本学校教育学会と一関市教育委員会の相互連携のための協定」を、一関市教育委員会と締結しました。この協定に基づいて、東京学芸大学附属学校の教員の協力を得て、「算数・数学学力向上研修会」における支援を実施しております。

本ラウンドテーブルでは、一関市教育委員会の学力向上施策（算数・数学学力向上研修会）への支援活動を素材として、教育委員会における外部人材の活用について、その現状と課題を確認するとともに、支援者の視点、専門家の視点から施策の展開、支援の在り方について議論を深めて行きたいと考えております。本ラウンドテーブルをとおして、教育委員会の効果的な外部人材の活用、学会における支援の適切な在り方を模索する機会としたいと思います。

本ラウンドテーブルの発表者、コメンテーター、司会は下記のとおりです。

#### 発表者

南浦 元 氏（一関市教育委員会主任指導主事）

加固 希支男 氏（東京学芸大学附属小金井小学校）

小岩 大 氏（東京学芸大学附属竹早中学校）

#### コメンテーター

矢嶋 昭雄 会員（東京学芸大学）

#### 司会

安藤 雅之 会員（常葉大学）

金井 香里 会員（武蔵大学）

#### 全体企画

佐々木 幸寿（東京学芸大学）

（実践研究推進委員会）

## ラウンドテーブル3

### 海外スタディツアーから見る東アジアの最先端教育

話題提供： 多田孝志（金沢学院大学）  
林明煌（国立嘉義大学 台湾）  
牛志奎（馬鞍山師範高等専科学校 中国）  
総括： 中山博夫（目白大学）  
司会： 張 建（東京電機大学）

#### 1. 本ラウンドテーブルの趣旨

国際交流委員会は、学校教育のグローバル化への対応を目指した研究・研修を行うため、いままです8回の海外スタディツアーを実施してきた。それらのスタディツアーでの学びを土台として、海外の教育現場で最先端の教育実践を視察し、その背後にある教育改革の流れを探究することは、学校教育のグローバル化への対応を目指した研究にとって重要な意味を持つ。特に、東アジアの国や地域は「生徒の学習到達度調査（PISA）」や「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS）」において常に上位に位置し、世界的にも注目されている。それらの教育システムは、中央集権型と知識伝達型の授業様式とを共通の特徴として指摘され、東アジア型教育と呼ばれるが、近年それぞれの東アジアの国や地域において内発的な教育改革が行われ、多彩な教育実践が模索されている。

本ラウンドテーブルでは、国際交流委員会を立ち上げ、海外スタディツアーを企画した当時の意図や思いを振り返り、中国、台湾等の先進的な教育実践例を報告し、ラウンドテーブルの参加者も巻き込んだポストコロナの海外スタディツアーに向けた討議を行う。

#### 2. 国際交流委員会海外スタディツアーの振り返り

##### (1) 日本学校教育学会ステューディツアーの黎明期

本学会は、グローバル時代の到来を視野に、学校教育の目的・内容・方法などの改革の必要性を認識し、2011年8月、学校教育のグローバル化に対応するため、理事会の議を経て、国際交流委員会を設置した。

2011年12月に実施された韓国へのスタディツアーはそのための具体的な活動であり、韓国の大学教員や教育実践者とグローバル時代の学校教育の在り方について論議することができた。さまざまな立場の方々と論議ができ、スタディツアー実施の意義を深めることができた。2012年8月には中国を訪問した。このスタディツアーでは、中国人民教育出版社を訪問した。李柳編集副主任から、「中国における教科書編集および教科書研究の歴史」に関する報告をいただいた。北京師範大学では、石中英教育学部長、楊寧一、姜星海、姜英敏の諸先生と研究会を行った。日本側から、二谷貞夫「2012年、北京に来た歴史的意義を考えたい—3つの歴史に思いを馳せる—」、山崎保寿「教員養成の高度化に関する学校管理職の意識調査に関する研究」、和井田清司「総合学習の誕生—その可能性を中心に—」の3つの報告、中国側からは牛志奎・高曉宇「中国における『国家中長期教育改革・発展計画綱要（2010-2020）概要』」が報告され、各テーマについて真摯・活発な研究交流が行われた。（多田孝志）

##### (2) 中国でのスタディツアーに参加して

中国で三回のスタディツアーを実施した。一回目は2012年夏（北京）、二回目は2016年冬（上海）、三回目は2018年冬（馬鞍山・南京）であった。私、牛が直接参加したのは一回目と三回目である。

2012年夏に会員7人が北京ツアーに参加した。北京師範大学で研究会が行われ、日中の研究者は報告した。その後教育部所属した人民教育出版社を訪問し、教材歴史陳列室で100年間の教科書を閲覧した後、研究会で教科書制度について熱い議論がなされた。翌日北京郊外の盧溝橋と近くの抗日戦争記念館を見学した。2018年冬のスタディツアーは南京（江蘇省）と馬鞍山の両地で実施した。馬鞍山の小学校、中学校、教育委員会と教育塾の総合ビルの見学の後、南京へ移動した。南京で教育家陶行知先生が創った曉莊師範附属小学校、陶行知記念館を訪問し、南京師範大学で日中両国大学の研究者と院生は質の高い研究発表がなされた。南京大虐殺記念館の見学も勿論貴重な成果である。（牛志奎）

### （3）台湾と中国のスタディツアー参加を通じて

日本学校教育学会が開催した海外スタディツアーが数回ある。私、林が参加したスタディツアーは、台湾（2013年）と中国・上海（2015年）であった。2013年冬に台湾スタディツアーが行われ、訪問見学した学校は、高雄市立の鹽埕中学校と中正小学校、国立高雄師範大学附属小学校及び高雄日本人学校である。台湾スタディツアー実施した頃、台湾の学校教育は、1998年に改訂した「小中学校九年一貫課程綱要」に基づいて教員専門職性の向上及び小中学校のカリキュラム統合に取り組み、「草の根モデル」のボトムアップ式による授業改革の利点を追求することにその特徴があった。一方で、中国の学校教育は、「中央－周辺モデル」のトップダウン式によるカリキュラム開発の中で、国家の競争力を向上するためのエリート教育を重要視していることが特徴である。2015年の冬に、復旦大学附属小学校と高等学校及び華東師範大学第二附属中学校国際部を訪問見学して中国のエリート教育の様子を伺い知ることができた。

台湾と中国の学校教育は、伝統的な学科主義と学習者中心の経験主義を統合して教育目的・目標を達成することにより、国家の競争力を高める点では共通しているが、その展開の方法においては顕著な差異がある。（林明煌）

### 3. 今後の展望

今、グローバル化する世界では、持続可能な社会に向けて価値観の転換が求められている。世界各国の学校は、それぞれの課題に対応しつつ、新たな教育実践の創出を模索している。このような多様な世界の教育実践をつぶさに観察し、また当事者になってかかわることは、本学会の研究をさらに推進する新たな原動力となることを確信している。

新型コロナウイルスパンデミックによって、2020年度の海外スタディツアーは余儀なく中止されたが、国際交流委員会では海外の研究者を招き、3回のミニ研究会を開催した。新型コロナの流行の中でしばらくは現地の訪問が困難であると予想されるが、様々な研究推進の可能性を検討し、ポストコロナ時代の学校教育の変貌を探ることを目指したい。（中山博夫）

（国際交流委員会）

---

日本学校教育学会第 35 回大会プログラム

発行年月日：2021 年 7 月 1 日

発行・編集：日本学校教育学会第 35 回研究大会実行委員会

実行委員会	委員長	鈴木久米男(岩手大学)
	副委員長	佐藤 進(岩手大学)
	事務局長	福島 正行(盛岡大学)
	委員	小野塚正樹(岩手県立盛岡第一高等学校)
	委員	川上 圭一(岩手大学)
	委員	菊地 洋(岩手大学)

〒020-8550 岩手県盛岡市上田 3 丁目 18-33

Tel : 019-621-6241 E-mail : [jase2021iwate@gmail.com](mailto:jase2021iwate@gmail.com)

共催 岩手大学、盛岡大学



【盛岡大学：<https://morioka-u.ac.jp/>】

2021年8月7日

日本学校教育学会 第35回研究大会 プログラム

共催：岩手大学、盛岡大学